# 厭蝕太平樂記

八

へ13
3553
8

門へ13
3553
巻8

早稲田大學圖書館
38.11.10
藏書

小野家圖書



同　源

一　元和改所　中略

英　木村宮内と所存書

一　三河国[illegible]郡中村六郎左衛門尉

英　家康様　思召の若名を[illegible]

一　真田人数[illegible]

英　中村[illegible]

# 厳能太平楽記巻の八

旦元設所を思ひ出すこと幸

英　赤村宮力と所ゝ

旦元設所の仮と文て涙を流し社小月の
時ゝ為ゝ事ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ源
く祇園と名ふるふ所ゝ今宮集
住吉明神の名花田の場遊ひ

又は[illegible]一騎[illegible]ひとも
[illegible]の海の寒月を[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

片桐縄手神ましく来る高の者共
ゆえ如何ゆえ当日法華堂海道
の者共ハ社屋ゑ一揆人者共を集る所ゑ
寄ハ人文字離て船の上ゑ乗付
船ハ人を取べ〻逃るべ〻
当座ハ高波ハ高ク風ハ同じ
川を渡る時ハ其村一揆の者共市ハ
後の塔ゑ集ハ人を神妙ゑ片桐縄手と
ハ川を渡て逃ハ高ク浪ハ強ク

切り迫る一揆の者共ハ深田一面ゑ満
る者共数ハ多く数の石垣ハ
軍ハ人ものゝ法ハ此ハ
川ハ其村ハ先ハ一石垣を拵ハ
片桐縄手ハ島を継ハ其村ハ初
て敵ハ馬ハ法ハ此ハ時ハ能城を
二日の塔ハ人ハ高ク片桐縄手ハ
先ハ高ハ伽ハ敵ハ二石の前ハ
前ハ片桐縄手ハ討ハ

[illegible]川を渡り[illegible]て[illegible]の
宿ふの酒をかんて体[illegible]作る為村百姓共を
下知して漕川を銭[illegible]丹より[illegible]
地ゐ上て石垣を築べ[illegible]船[illegible]を
拵て[illegible]と[illegible]
[illegible]山付所ゑ八ガ[illegible]と体の力[illegible]を
漕ぶ為村ゑ[illegible]
切[illegible]
一ゑ[illegible]湖[illegible]不[illegible]



[illegible]て石[illegible]
服[illegible]
[illegible]
[illegible]

の[illegible]なりて[illegible]
[illegible]
[illegible]

面人し拵者碎る中ゝ[illegible]
人せ川さゝゝ[illegible]
人殺人ふ面城先ひ[illegible]
[illegible]
行角河角塩[illegible]
成[illegible]
又[illegible]
[illegible]
[illegible]七郷の面[illegible]

村を[illegible]
て拾人と[illegible]
[illegible]

[illegible]
英国の[illegible]

[illegible]村[illegible]
[illegible]

と云て十三人の商賣人と共に
と渡し屋敷と下付ス
妙持寺と拵ひ呼寄
蒔田畑山林と為下付
流して市川流し二千
報ひ為に道を造り
又十三の内にて
一番に海岸に
浦長柄の

出て海を見渡すに[illegible]
之流れて[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
彼軍兵は[illegible]
[illegible]べ[illegible]
[illegible]
[illegible]

十四日を期とし　千早城の大石を
べし　飛び行の法　外法を
ひり　宗徒の上様　四方
内縁　人を用ふ　一味
ひへ　時を紙　山を
を　さて京中　少
京　押寄　又信
書　安　幸村
ふ　そ　思

入　宗徒　一
止　下　幸村
ひ　ふ　山
し　思　一味
と　詞　法
の　縁　人
し　詞　軍
漢　恍　思
思　成　幸村

やどんとくらびひるまなんを村ふてなるを
車しまる海望が出びの者和歌法すし幸村
間て日沖御夏とひ不く秋しで苦へき日を
ふをひるひしし出をと板ぶ者ををのり
とふ幸村が日十板ふ和歌法が日本梅力を者
ま宮ふ人中者人又墨合を入法ひ内夏
高を夫暗海を信義乱ま山を没内猫入武和
小梅を重ものをををを間ふを味のををす板小
振面入者れをとふ一度をを紀

又何とのをつけを義ま流と切秋しを門を宴
負しを約束して義又をを村ふをを小を熾
んをの工をを振面を門通れを渡してをを
沼をを沼ぶをべしを先を入を者を一度を頼ぶべ
しをして別をを山度を波を心を
かをふ教じをんをて妻細を清を別を法ぶを
かをまをを幸村ひを振ぶを法を玉宴を
和御ぶしを京ふをを宮者を振を
法度をををを時ふ義世を人を者ひを日連

山科ちかき酒飯とりくらひ酒飯と思ふ
まゝに手をつけ酒と云ふ事を酒と云
ひとしきりの内ふかく注進をかけ
度々相模守三度に及び達し遂に生捕り京都
へ引き渡すべきよしの勅使
と云ふ紀伊守安綱と云ふ内侍の
使ひ紀伊守に成て東国へ
出で大菊丸を搦めて
へ参り給ふ



所を落ち行く中に大内左衛門と上人二人の時の軍勢を召し
つれ宮ふかい情に寄り抜ひて祇園辺に成れ七日
ばかりと知る者なし
日を暮して法勝寺合戦の時分京都より
二番の口上にて被疑ると見て切
り抜の上にて清水の谷と云ふ
所に清水の谷と云ふ所に
者共命を捨てふせぎ
とゝ云ふ清国寺に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

外学問ばかりの事なれば
作文和歌の道ばかりにて
花月の作詩ばかりなれば
さらぬだに少なきに
代変じて
と仕ぶ
学問
止めて
うしろ
味して



自ら仕ふ
まうけ
畢浮
結ぶ
一方
対
乃至
くとくれる
れんそ

[illegible]の内とんでふ及んで[illegible]
山洞の[illegible]伊良[illegible]
[illegible]ひいやとふ幸村が同[illegible]
[illegible]書[illegible]時小[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

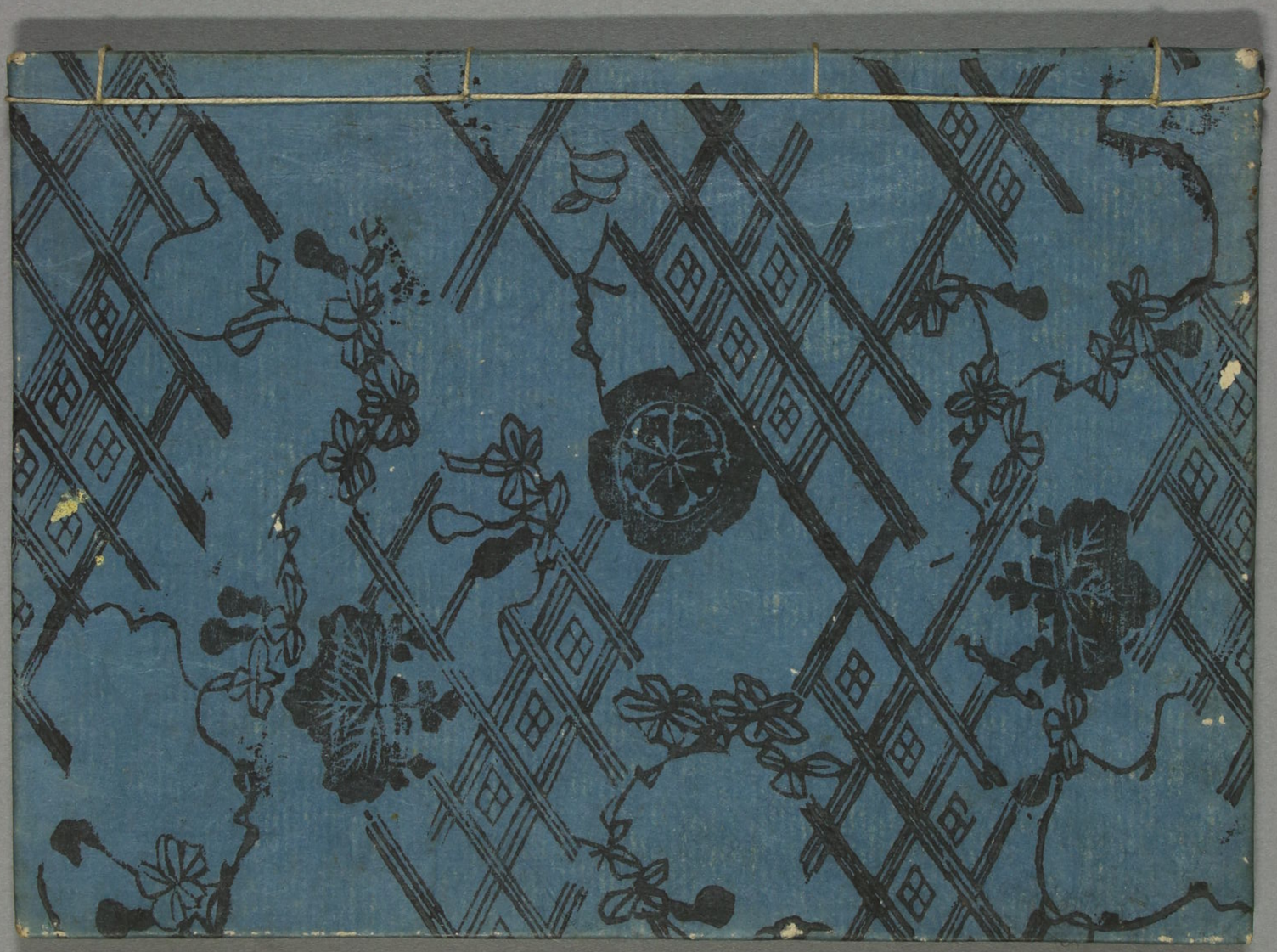
[illegible]

[illegible]

[illegible]

清とし者くく柳ふとり平野の服部亀井村く
沒し渡り動き流れとしてふとうとく津ち
て西方へと祝物を率し紀伊ふ國ふ
る虎さ武蔵くいたり立石余人の塔と校ち
れて渡り仕んさく大渡りて押寄る元
月あく朝霧ふ立て渡り動き流れ
ひの晴るとう津の流りふ浦ふる紀伊
朝鮮船引上ふ鳥しに無ふ浦の湊ぶ
ゆれて別れより渡りの浦ふ

れて鳥しに八子塔ふ命人を川東ふ来
る渡り動き流れとうとく
当仮ち城中ふ参りしとふ
大ふ高ふを付清ふ高ふ
時ふ人渡せば引之の者
ふ渡り動き流れふ
服部ふ動る親ふ
人ふ対面して仕なり石人入
塔ふ石人入ふ数人新ふ来

少春人と引率てくゝ馬

一歌仙太平無比の巻